

# 牛久：学校周辺に見る自然

第3号 牛久自然観察の森

2019年4月9日発行

## ＜ 牛久自然観察の森で、“春”を楽しみました。～③動物 ＞

4月6日、花見をかねて歩いた牛久自然観察の森、今回は動物です。



成虫で冬を越した、アカタテハ。もう、はねがボロボロ。



ヤマブキの花粉(かふん)や蜜(みつ)をなめるヒラタアブのなかま。



小さいけれど、これで成虫、ヒシバツタ。

まずは、昆虫(こんちゅう)のなかま。はねがボロボロになったアカタテハが、まるでハエのように顔のまわりを飛んだり、帽子にとまったりしました。タテハチョウのなかまは、人の汗などにも集まることがあり、このアカタテハも私の顔の汗に引きよせられたのかもしれませんが。

ヘビイチゴには、とても小さなバツタ、ヒシバツタがいました。背中がひし形に見えるので、この名がつけました。第1号で紹介したヤマブキには、ヒラタアブのなかまが来ていました。まだ寒くてハチがあまり活動できない中、ハナアブの仲間はせっせと花粉や蜜をなめてまわります。

最後にカエル。ニホンアマガエルが何頭も歩き、草をよじ登ったりしていましたが、まだ動きはにぶく、よたよたした感じでした。池には、まっ黒なヒキガエルのおたまじゃくしが群れていました。【理科支援員：宮内】



吸盤(きゅうばん)を使って、草をよじ登るニホンアマガエル。



黒く小さなヒキガエルのおたまじゃくし。